

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ツリーハウス 美作粟井教室		
○保護者評価実施期間	2024年11月1日		2025年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数) 14名
○従業者評価実施期間	2024年11月1日		2025年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	2025年3月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・“子ども達へ還元する”という社長の理念のもと、子ども達の活動や療育、やってみたいことや、行ってみたい場所等のリクエストに関しては寛容である点です。できない理由よりもどうにかできる方法を考えるスタンスであるのがこの事業所ならではの強みだと思います	・毎日の朝礼時に、振り返りと目標設定を行っている	・流行や時代にも敏感に柔軟に対応しながら様々なプログラムを取り入れる
2	・他府県にも事業所があるため、ツリーハウスの他の教室の子ども達とも関わることができることや、言語聴覚士による個別訓練を行っていることです	・気づきノートを作成し、利用児童の出来るようになったことや困っていること、どのような関わり方が良いかななどを細かく記録し、全職員で共有している	・色々な団体と連携することで、それぞれの道のプロと関わりを持ち、福祉にの考え方に固執せず、社会につながる取り組みを行う
3	・地域の方々との密なコミュニケーションを意識しています。旧粟井小学校は、地域の方々が色々な用途で利用されるという、小学校の跡地だからこそその強みを生かしています	・専門家によるオンライン勉強会の開催、個別の課題もSTに相談し教材を作成している	・事業所内に留まらず、地域の方々への支援（お買い物サービス支援など）を幅広く行っていく

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・事業所が取り組んでいること、職員の想い、取り組みの意図などが中々伝わりづらい	・情報発信の機会が少なく限られている	・保護者や外部の人達に向けた啓蒙活動やツリーハウスを知っていただく機会を設ける。リーフレット・パンフレットの作成
2	・人材の確保が困難であること	・立地的な問題、限界集落の中であるため主力となる年代の人材が津山市などの市街地へ流れてしまう	・ツリーハウスの露出度を上げ認知度を上げる。地域の方々にツリーハウスで働きたいと思っていただけるように、もっと密に関わっていく
3	・障がい理解がなかなか厳しい部分がある	・地域内での関わりの中で障がいとされる部分を表に出さない傾向がある	・地域への啓蒙（活動障害や特性についての理解をしていただけるよう機会を設ける）